

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：衛生費 項：保健予防費 目：感染症予防費

事業名 結核対策特別促進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部感染症対策推進課 感染症対策第二係 電話番号：058-272-1111(内 4655)

E-mail：c11237@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,831 千円 (前年度予算額：1,831 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,831	1,831	0	0	0	0	0	0	0
要求額	1,831	1,831	0	0	0	0	0	0	0
決定額	1,831	1,831	0	0	0	0	0	0	0

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

県内では290人の結核新規患者が発生しており、罹患率も14.6と全国平均に比べて高い状況にある(R1)。国際的にも日本は結核の「中まん延国」とされており、結核の制圧に向けて継続した努力が求められている。

効率的・効果的な結核予防対策推進を検討・実施するため、結核に関する最新の知識・技術・情報の収集、県の結核対策を推進する人材の育成が必要である。

(2) 事業内容

本県の結核の罹患率は、長期的にみると着実に減少しているが、全国との状況と比較すると依然として厳しい状況にあることから、引き続き結核対策特別推進事業を実施する。

① 結核患者服薬支援(DOTS)事業

結核を治療するために最も重要なことは、抗結核薬を6か月間もしくは9か月間継続して飲み続けることである。しかし、長期間毎日薬を飲み続けることは容易なことではなく、本人の意志だけでなく、各関係機関が連携して、患者を支援する体制づくりが不可欠である。そこで、医療従事者・保健師等が連携し、結核患者の服薬を支援するため、壁掛けポ

ケットの購入及びDOTS手帳を制作する。

② 結核技術者研修への参加

結核対策に必要な知識と技術の習得のために研修に参加する。

(3) 県負担・補助率の考え方

国 10 / 10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額(千円)	事業内容の詳細
旅費	1,003	DOTS服薬支援員費用弁償 結核技術者研修業務旅費
需要費	622	DOTS壁掛けポケット購入費、DOTS手帳印刷費
負担金	206	結核技術者研修受講費
合計	1,831	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

岐阜県感染症予防計画

(2) 後年度の財政負担

結核予防技術者地区別講習会については、平成35年度まで自県開催はないが、引き続き当該講習会及び他の研修に参加し、新しい知識や技術の習得に努める必要があり、引き続き実施する。

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
結核に関する最新の知識・技術・情報の収集、県の結核対策を推進する人材の育成を行い、より効率的・効果的な結核予防対策推進を検討・実施する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
人口 10 万人当たり 結核罹患率（暦年）		15.6 (H29)	14.0 (H30)	14.6 (R1)	10.0 (R3)	68.4%

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
- ・地区別講習会参加者数 12名
- ・結核研究所研修参加者数 8名
- ・研修参加者による伝達講習 新型コロナウイルス感染症の影響により中止

（前年度の成果）

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
- ・研修会への参加により、最新の知識・技術・情報を習得し、県の結核対策を推進する人材を育成することができた。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い 	
(評価) ○	戦後、国内の結核感染率は大きな改善を遂げてきたが、依然として県内では 290 人の新規患者が発生しており、罹患率も全国平均に比べて高い状況にある（R1）。国際的にも日本は結核の「中まん延国」とされており、結核の制圧に向けて継続した努力が求められている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	結核罹患率は徐々に減少傾向にあったが、昨年微増となった。低まん延国の定義である罹患率 10 以下となるよう、より一層の努力が求められる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある 	
(評価) ○	研修会で得た知識等は、伝達講習会を開催し、県の結核対策担当者内で共有している。（R 1 年度中止）

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 <p>今後は高齢化の進展に伴う高齢者と、外国人労働者等の増加による外国出生者の発病がさらに増加することが危惧され、また治療中断等による多剤耐性結核菌の発生や重度の合併症など、治療の困難な事例の増加が予想される。</p>
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか <p>今後更なる増加が危惧される高齢患者を中心として、他の結核対策事業と相俟って、早期発見、早期治療、並びに二次感染の防止を徹底していく。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせる理由や期待する効果 など	